獨協医学会

会　長　寺野　彰（獨協医科大学学長）

運営委員会委員

平田　幸一*　奥田　泰久**　秋山　一文　石光　俊彦　植木　敬介
上田　善彦　内田　幸介　大竹　英樹　大平　修二　小端　哲二
佐々木忠昭　篠田　元扶　杉田　憲一　千種　雄一　中元　隆明
野上　謙一　籏持　淳　服部　良之　春名　眞一　深澤　一雄
本田　幹彦

*委員長　**副委員長

Dokkyo Journal of Medical Sciences 編集委員

小端　哲二*　石光　俊彦**　上田　善彦　内田　幸介　大竹　英樹
杉田　憲一　千種　雄一　服部　良之　春名　眞一　深澤　一雄
本田　幹彦

*委員長　**副委員長

編集事務員

鯉沼　行子

編集後記

Dokkyo Journal of Medical Sciences/獨協医学会雑誌33巻2号が，和文原著1編以外すべて英文で原著1編，症例報告3編という内容で発刊に至りました．ここに発刊にご尽力戴きました関係各位にまずは深謝申し上げます．

さて，気楽に引き受けてしまった編集後記を書く段になると，編集後記とは何か？どんな意義があるのか？など性格上余計なことが頭に浮んで執筆が進まない．医学雑誌では，毎号編集者がある目的をもって編集することが多く，その意図を読者に知ってもらうために後記が書かれているが，投稿を原則とする学会雑誌は投稿規定と査読があり編集者が毎号後記を書く必要がない？ただ後記だけしか読まない「後記評論家」や「後記愛読者」がいるようです．こういう方々のためにも各論文の最重要点を抄録して差し上げないといけないところですが，今回の掲載論文もりっぱな表題とまとめがあるので，そのような差し出たことは能力もないのでやめます．結局は読者諸氏に各論文を熟読して下さいとお願いして後記執筆の目的を果たすと共に，特権を利用して少し雑記を一筆．

さる6月14日に高齢者の自己負担増や療養病床を削減する医療制度改革関連法が国会成立した．これにより国の医療費抑制策に伴う医療の質低下や格差拡大を危惧する声や，「金にならない入院患者が追い出され，行き場がなくなる」「診療報酬削減ですでに療養病床の閉鎖が始まっている」など怒りや不安の声も出ている．患者さんや医療現場にもたらす影響はどうなのか，当然我が獨協医科大学病院の影響はどうなのか，他人事ではない．臨床医は医療経済も考慮した診療を行わねばならない．そのために，医療の質が下がり，患者さんに不利益があってはならない．獨協医科大学の名に恥じない質の高い医療水準を維持するために臨床的・基礎的研究は不可欠であり，このような情報発信も本誌に課せられた重要な役割であると認識しています．

わずかのスペースで最後は無理やり本誌の本質に結び付け意を尽くせない後記となりましたが，最後に読者諸賢のご批判を仰ぎ，今後も獨協医学会雑誌のご支援をお願いする次第です．

（本田幹彦）

2006年7月20日印刷　第33巻　第2号
2006年7月25日発行

編集発行人　獨協医学会
寺野　彰

発行所　獨協医学会
〒321-0293 栃木県下都賀郡壬生町北小林880番地
獨協医科大学
Tel（0282）86-1111（内線2009）

製作　教文堂
〒162-0804 東京都新宿区中里町27
Tel（03）3260-6136